

第64回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

JB055CE	中学	生物	愛知県
学校名		岡崎市立美川中学校	
研究作品タイトル		飛来する昆虫と気温・湿度の関係	
研究者氏名 (共同の場合はグループ)		森田 晴空	
指導教諭氏名		河合 賢也	

【動機】

クワガタムシやカブトムシの採集が大きな目的だったが、調べて行くうちにおもしろい昆虫の世界をたくさん発見した。そして、集まる昆虫の数が日によって異なることに気づき、どのような条件で昆虫が集まりやすいのか調べたいと思ったから。

【方法】

毎朝6時に自宅にある灯火に集まる昆虫を採取し、採取した種類と数を記録する。また、その日の気温や湿度などの気象状態も合わせて記録をする。そして、集めたデータをもとに、昆虫の活動の傾向を考察する。

【結果】

気温の上昇とともに昆虫の飛来数が増えることが分かった。また、気温が同じ場合でも湿度によって昆虫の活動が活発になったり、おだやかになったりする。

【まとめ】

灯火に飛来する昆虫の多くは、気温25 ~ 30 で、湿度70% ~ 80%を好むようである。気温が高すぎ部場合は昆虫も夏バテをする。また、雨が多い年は飛来する昆虫が増え、反対に雨が少ない年は湿度が飛来する昆虫が減る傾向にある。

【展望】

小学校3年生のときから今までの間に、周りの環境が変化し、見られなくなった昆虫もいる。しかし、家の近くには、昆虫が生息するのに適している乙川と広葉樹林がある。この自然を守っていくためにも、飛来する昆虫の種類や数から、環境の変化をとらえていきたい。